

骨関節疾患の理学療法を効果的に実施するには、発症機序や受傷機転をバイオメカニクスの視点で分析し、随伴する関節症状、運動障害との関連性を見極めることが必要である。臨床においてバイオメカニクスを活用することは、疼痛を誘発しない運動パターンの指導、効率的な筋力増強や関節可動域拡大の手技、スムーズな身体運動を再獲得する根拠となるだけに重要である。本号では、臨床現場で担当することの多い骨関節疾患を対象に、バイオメカニクスの視点での治療課題の抽出、運動療法と効果の捉え方に焦点を当てた。

■骨関節疾患の理学療法とバイオメカニクス—日常生活動作、応用動作を中心に（甲田宗嗣，他論文）

本稿では、バイオメカニクスの知見を骨関節疾患を有する患者の日常生活動作や応用動作に活かすために、特に動作指導という観点からバイオメカニクスの基本的な理論を提示し、実践するためのポイントについて述べた。特に、動作のバイオメカニクスを静的・動的に理解する方法を提示し、最後に動作指導を行う際に有用な会話術を紹介した。

■変形性股関節症に対する理学療法とバイオメカニクス（南角 学，論文）

変形性股関節症や人工股関節置換術後における理学療法での治療課題は、荷重位で股関節機能を十分に発揮させることにより、歩行を中心とした動作の改善を図ることである。そのためには、全身的な視点から股関節疾患の障害像を捉えた上で、効果的で根拠のある理学療法を展開していくことが重要である。本稿では、筆者が臨床場面で工夫を重ねながら行っている評価ならびに治療をバイオメカニクスの視点から述べ、その根拠となる運動力学および筋電図学的データを紹介する。

■変形性膝関節症に対する理学療法とバイオメカニクス（西上智彦，他論文）

変形性膝関節症（knee osteoarthritis：膝 OA）は理学療法の対象となる機会が多い疾患である。これまでに、膝 OA の発症・進行のリスクファクターとして機械的因子が認められている。本稿ではバイオメカニクスの視点から治療対象を明らかにし、それに対する病態仮説を立案し、認知神経科学や運動学習のメカニズムについての知見を考慮した理学療法プログラムを紹介する。

■肩腱板損傷に対する理学療法とバイオメカニクス（唐澤達典，他論文）

肩腱板損傷に対する治療方法には、保存療法と手術療法があるが、当院では長期的な機能の回復と維持を図る目的で、重症の基礎疾患がある患者や手術を望まない高齢者を除いて積極的に手術療法が行われている。今回は術後理学療法にポイントを絞って報告し、バイオメカニクスとの関連性についても言及した。肩腱板損傷に対する理学療法は、症状および状態の観察と評価により肩の機能回復の過程を十分に把握して、適切な治療プログラムを立てて実施することが重要であると考えられる。

■腰痛症に対する理学療法とバイオメカニクス—前屈型腰痛症に対する評価と運動療法（鈴木貞興，他論文）

腰痛症には、前屈型の他に後屈型、回旋型、混合型など様々なタイプが存在する。本稿では、不適切な身体運動のために、機械的ストレスが腰部へ加わることで発生する腰痛症のうち、特に前屈型腰痛症にフォーカスをあてた。腰痛発生メカニズムを推察する上では、まず前屈運動に留意することが重要であり、立位体幹前屈運動のバイオメカニクス、適切な前屈運動に必要な因子と評価のポイント、運動療法について述べた。

とびらページの書道作品について

「雲中(の)白鶴」

解説：世俗を超越した気高い気性の持ち主(三国志)